

知って納得
最新業界コラム
 The newest industry column.

ロマンチックな
 ストーリーに思いを馳せる日：「七夕」



Image photo

年に一度、天の川で仲を隔れた織姫と彦星が、念願かなって再会できる日。それが七夕です。

琴座のベガと呼ばれる織女（しゅくじょ）星は裁縫の仕事、鷲（わし）座のアルタイルと呼ばれる牽牛（けんぎゅう）星は農業の仕事をつかさどる星と考えられています。この二つの星は旧暦7月7日に天の川をはさんで最も光り輝いているように見えることから、中国でこの日を一年に一度めぐりあいの日と考え、七夕ストーリーが生まれました。

ロマンチックなストーリーに思いを馳せ、多くの人が夜空を見上げる日。しかし、織姫と彦星の再会を思いながら夜空を見上げてみたものの、なぜか曇り空。なんてガッカリした経験をされた方も、多いのではないのでしょうか。

なぜこのようなことが起こるかというと、本来の七夕の日が旧暦7月7日の行事だからです。

旧暦7月7日といえば、今の暦でいえば立秋および8月7日以降。

もともと七夕は、お盆前に秋の豊作を祈る行事として行われていたといわれています。そのため七夕の伝統を重んじる地域（仙台七夕まつり等）では、今でもお盆前行事として8月7日前後に七夕をお祝いしています。

ちなみに七夕の日には、笹の葉に五色の短冊を飾られるご家庭も多いかと思えます。

この短冊の色は、中国の五行説に基づくもので、黄色は「土」、白は「金」、緑は「木」、



優しい色使いが印象的なイギリスのアンティーク雑貨「スージークーパー」の陶器に囲まれた店内はゆったりとした時間が流れ、訪れた方々に非日常の空間を楽しんでほしい、そして『心のゆとりと賢沢』を感じていただければというオーナー静さんの想いがあふれたお店です。

この場所でお店を始めたきっかけは、偶然電車広告で見かけた寺内町に興味をひかれ訪れた際に空家（元味噌醸造所）を活用した複合店として店舗を募集していたこの場所（紅梅蔵）に一目ぼれ。瞬間的にここでお店を始めたいことを決められたそうです！

これからの「しゅみのみせ 静」について尋ねると、「縁があって引き寄せられたこの場所で、今後も寺内町とお店のよさを崩さず、訪れた方にゆっくりと会話を楽しんでいただき、安心して入れるお店であり続けたい。そして、店主にとっても『しゅみ』の店ですが、お客様にとっても『しゅみ』の店になれば・・・。」とのこと。

静さんとの楽しい会話に、引き寄せられるように訪れたお客様の笑顔が目につかぶようです。



Vol.10 しゅみのみせ 静

住所：富田林市富田林町 23-39
 営業時間：11：00～17：00
 営業日：土曜・日曜日、
 祝日（季節により不定休）

DATA

Vol.11 月桃

住所：富田林市富田林町23-39
 電話：0721-25-3001
 営業時間：11：00～18：00
 問合せ随時
 営業日：土曜・日曜日
<http://jinaimachi-gettou.net/>

DATA



杉野さん親子が営む「月桃（げつとう）」では祭禮・贈答用品等はご子息の竜彦さんが、ドライフラワー等はお母様の仁美さんがそれぞれ担当されており、店内の壁一面に飾られたお祭り用の色鮮やかなうちわやのぼり、節句の贈答品等と色とりどりのドライフラワーで、華やかな店内は訪れた人の目と心を楽しませてくれます。

もともとは竜彦さんが大のお祭り好きで、物作りの勉強をしていた事から15年ほど前よりだんじり関係のデザインを行っておられたそうです。寺内町でお店を始めた現在も商品のデザイン、布染めから刺繍までを自分の工房で請け負い、様々なオーダーにも対応されています。（そのため平日は製作期間となっています。）

また、当初は取り扱う商品も少なかったため、仁美さんとおばあ様が作られたドライフラワーも一緒に販売したことから、現在のお店の形が出来上がったそうです。今では自宅で、食卓を囲みながら、親子三代で仕事の話をするなんてこともあるそうです。

「好きな事が仕事になって、今とても幸せです。」そうおっしゃる竜彦さんのお言葉からも、月桃の明るく楽しい雰囲気が伝わってきます。

これからのシーズン、お祭り好きにはたまらないお店です。ぜひ、のぞいてみて下さい。

赤は「火」、黒は「水」を象徴する色なのだそうです。

また七夕の飾りには短冊だけでなく、織姫の織り糸をあらわす吹き流し、豊作大漁を願う網飾り、長寿を願う折り鶴なども飾られます。

本格的なものになると、着るものにも困らないよう「紙の着物（もしくは紙人形）」、ものを大事にする人になるようお願いを込めて、「紙くずが入ったくずカゴ」、さらに金運上昇を願って、「本物の財布や、紙で作った財布」を、笹に下げるそうです。

今年の七夕には、本格的にこれらの飾りを、笹の葉に下げてみてはいかがでしょう？

さて、今年の7月7日の夜。

織姫と彦星のロマンチックな再会を見ることができるといいですね。

お天道様に祈りつつ、楽しみにして待ちたいですね。

次号は「家具製作 kinogu」と「Zakka++++marche」をご紹介します。お楽しみ！